

平成 29 年度 事業報告



玉野総合医療専門学校

21世紀の医療・保健・福祉のスペシャリストを育成します。



1. 教育面については、国家試験の全員合格を目標に全学を挙げて取り組みました。
また同時に、少子高齢社会を迎えた社会的確に対応できる人材の養成に取り組みました。
2. 研究面については、教員と学生の研究・症例研究活動の充実を図り、教員のみならず学生における現状の深層理解と改善能力のスキルアップを図りました。
3. 臨床実習を基軸として、現在の医療・福祉現場の理解を深め、地域貢献の充実を含む現状の改善・改革を推し進めました。
4. 産学官連携を目指し、玉野市との連携を充実させるとともに、加計学園の一員として産学官連携活動へも積極的に参画しました。
5. 20周年に向け、ビジョン・アクションプランを作成しました。

教学の充実

■カリキュラム

保健・医療・福祉のスペシャリストの養成校として、保健看護学科、介護福祉学科、理学療法学科および作業療法学科において、それぞれの学科で目指す国家資格に係る分野の基礎から専門基礎、専門へと体系的なカリキュラムを構築し、教育を行いました。

また、2019年度にカリキュラムの大幅な改正が行われるとの動向を見据え、カリキュラムの見直し作業に取り掛かりました。

■FD推進

多様な学生への対応および変遷する国家試験を見据えた教育力、指導力強化に取り組みました。

具体的には、教員自身で行う自己点検評価、学生による授業アンケートの実施（前期・後期）、校長、副校長などによる授業観察を実施しました。

また、大学とは異なり、研究を主たる目的としない専門学校ではありますが、自己研鑽できるよう個人研究費を配分し、学会、研修会などへの参加を促進し、2017年度の学会参加件数8件、研修会参加14件、研究計画5件、論文発表は3件となりました。

■教員定員

法令を遵守し、最新の医療・福祉に精通した教員の確保に努めました。

研究の推進

■研究活動の推進

(1) 教員の研究活動を推進しました。

全ての教員に対して個人研究費を付与、大学院への進学許可およびイベント実施日の勤務体制配慮、施設設備利用の許可等、研究活動を行うための環境を整えるなど可能な範囲で支援を行いました。

(2) 学生の研究能力の開発を推進しました。

保健看護学科では、看護研究の意義と目的を理解し、研究の進め方と方法の基礎的知識を得ることを狙いに講義・演習を行いました。特に、3年次・4年次の看護学実習を通して、自らの体験を振り返り、客観的に見つめ直し、患者の反応の意味や看護の価値、よりよい援助の在り方、看護の現象を考えていけるよう、ケースレポートの作成に段階的に取り組み、報告会で情報の共有を行いました。一方、理学療法学科、作業療法学科では3年次後期からグループ研究を開始し、4年次後期に発表会を行いました。また、介護福祉学科では、2年次前期には事例研究を後期には別の事例研究を行い個々が発表する機会を設けました。

■学内紀要への積極的投稿

昨年に引き続き紀要を作成しました。研究を奨励し、研究成果を発信する機会を設けるために昨年に引き続き今年度も発行しました。昨年度発行された第11巻では、6件の研究発表と2件の報告が寄稿されましたが、今年発行した第12巻では、原著論文3件、総説1件および報告1件が寄稿されました。

学生支援

■修学支援

(1) 新入生の基礎学力を向上させるための Remedial Education を充実しました。

新入生の学力を把握するために前期の授業が

始まる前に基礎学力試験を行いました。試験の結果を踏まえ、各学科で必要となる基礎学力と学生個々の学力差を確認し、個々の学力に応じたプログラムによる、きめ細かな Remedial Education を実施しました。

(2) 学生個々の学力に合った指導を充実しました。

授業の前後、放課後および空きコマを利用し、学生への個別相談や個別指導を行いました。特に小テストなどで理解度を確認し、講義内容への理解が不十分な学生には教員が積極的にアプローチし学生の理解度を高めるための指導を行いました。

■海外研修の実施

9月5日から9月16日、アメリカ研修を実施しました。学生3名と引率教員1名で研修団を結成。シェネンドア大学(ウィンチェスター市)での研修、ホームステイ、首都ワシントンDC、ニューヨーク、ロサンゼルスなどで文化体験を行いました。

■障がい学生等の支援

現在、障がいのある学生は在籍していませんが、受け入れに関する相談、支援体制の充実を検討しました。

■生活支援

(1) チューター、コーディネーター制の導入によるサポート体制を実施しました。

保健看護学科では、1学年に2名のコーディネーターを配置し、実習指導で手薄になった際にもサポートができる体制を整えました。

また、介護福祉学科、理学療法学科および作業療法学科では、担任制を導入し、きめ細かなサポートを実施しました。

(2) 外部からスクールカウンセラー並びに診療所勤務の心理士を招き、定期的にカウンセリングを行いました。

カウンセリングは事前予約制とし、教室から離れた場所にカウンセリングルームを設けるなど学生のプライバシーに配慮し、学生が相談しやすい環境を整備しました。

- (3) 無料のスクールバスを岡山駅西口～本校間、倉敷駅～茶屋町駅～本校間で運行し、遠方から通学する学生のサポートを継続しました。
- (4) 部活動を奨励するとともに活動を支援しました。軟式野球、サッカーを始め多くの運動系の部とハンドクラフト、手話などの文科系の部が活動しました。成果として、2017年度岡山県専門学校交流スポーツ大会で総合準優勝を果たしました。また、硬式テニスと卓球は、岡山県内の予選を勝ち抜き、全国大会に出場し、卓球女子ダブルスでは全国準優勝という輝かしい成果を上げました。一方、部活動が安全かつ活発に行えるよう教職員が顧問に就任し、練習する曜日を定め、活動を行いました。顧問が不在時などは、活動ができるよう代理顧問が活動を見守る体制を整備しました。また、大会直前には、学生の意向を尊重し、追加練習に付き合うなど正課外活動の人的支援を行いました。また、全国大会に出場が決まった際には、教職員を対象にした支援金の募集活動や同窓会と連携した遠征費の一部支援を行いました。

■就職支援

- (1) 求人情報を素早く開示し、学生の就職活動を支援しました。寄せられた求人は、内容が確認出来次第、学生がいつでも閲覧できるよう開示しました。
- (2) 各学科で就職担当者を決め、学生の希望、学習状況などを鑑み、個別に就職相談に応えました。
- (3) 全学科において1年次から4年次へと段階を踏んだガイダンスを実施し、入学後から就職に対する意識付けを行いました。

■その他

- (1) 学生指導主任者を選任し、責任を持って学生指導を行いました。また、各学科の学生指導主任者と事務局で定期的に会議を開き、学生指導に関する協議を行いました。
- (2) 学生総合補償の保険料を学校が負担し全学生が、安心して学内での学習、学外での実習並びに部活動ができる環境を作りました。

- (3) 学科・学年ごとに最適な時期に教育・進路懇談会を実施し、学生の学校生活、家庭での状況などの情報を共有し、学生の変化に即応できるよう保護者と教員が連携した学生サポートを行いました。

社会連携・社会貢献

■行政機関との協定

玉野市と連携協力し、市民向けのアカデミックな公開講座をはじめ、生涯教育に関する出張講義、地元の中학생、高校生を対象とした講義や模擬授業を積極的に実施しました。また、たまの・港フェスティバルや玉野まつり、キッズビジネスタウン玉野など地域のイベントへも積極的に参加し、地域になくしてはならない存在として貢献しました。

■公開講座

医療・保健・福祉に関する最新情報を提供し、市民の暮らしをサポートしました。今年度は、『心豊かに、自分らしく』をテーマに、10月7日、10月28日および11月18日に、「ガンについて」、「脳を元気にしていきいき自分らしい生活を目指して!」、「心豊かに自分らしく あるがままに生きる ～マインドフルネス瞑想をもちいて～」をテーマに3回の講座を実施しました。毎回50名を超える方々が参加されました。毎年この講座を楽しみにしている多くの方々のために、今後も継続して実施します。

■地域活動への参画、国際交流への参加

- (1) 各種イベントへ参加し、地域に貢献しました。玉野市最大のイベント「たまの・港フェスティバル」(5月20日、21日に実施)へ参加し、無料の健康増進体験ブースを出店しました。また、玉野市の中心地で行う盆踊り大会「かつからか祭り」(8月5日に実施)では、今年度は約60名の学生並びに教職員が踊り連に参加しました。

(2) 海外からの研修団受け入れ、外国との交流を行いました。

本学園と教育交流協定を締結しているアメリカ ライト大学、フィンドリー大学、ブラジル パラナ連邦大学、パラナ・カトリカから訪日文化研修団を受け入れ、学生主体による交流会を実施しました。主な取り組みとして英語による学科紹介、日本の文化体験として餅つき体験などを行い、最後にソーラン節を全員で踊り、同世代の外国の学生と接することで、国際理解・協力の一端を経験しました。

■ ボランティア活動

地域からの要望に応えた連携協力活動を実施しました。学生ボランティアの募集情報は内容を精査した上で学生掲示板に掲示あるいは直接説明を行いました。また、ボランティア活動を学習成果の一部として認定する学科もあり、積極的に推進しました。

教育環境

■ 設備の充実

教室での教育効果を上げるために教室内のプロジェクター7台を更新しました。

理学療法学科では、アスリート向けの車椅子、短下肢装具を、作業療法学科では、日常記憶の診断が行えるリバーミード行動記憶検査用具セットなど、演習での教育効果を上げるための機器備品を新たに導入しました。

また、事務室では、カリキュラム改定の動きに合わせて導入した教務システム用のサーバを更新し、円滑な業務が行える環境を整えました。

学生の受入

■ 学生の受入方針

学生の能力、適性、可能性を確認し、優れた人材の確保に努めるために、志望理由書などの書類審査、面接審査、口頭試問、小論文審査、筆記試験などによるさまざまな選考方法で入試を実施しました。

■ 入試方法等

AO入試を始め、特別入試、推薦入試、社会人入試および一般入試など多様な入学試験を実施し、多様な学生を選抜しました。また、岡山県以外からの入学希望者に応えるために地方会場も設けました。

■ オープンキャンパス

多様なオープンキャンパスを実施し、本校の魅力を伝えました。2016年度オープンキャンパスの開催日数及び内容に新たな内容を加え、高校生や保護者に魅力あるイベントを実施しました。

また、山陰、姫路、福山方面からの受験者の確保を目指し、送迎のためのバスを運行しました。

■ 職業訓練生委託事業

岡山県が実施する職業訓練事業として介護福祉士養成課程の公募があり、本校もエントリーをし、採択となりました。訓練生の募集に対し、岡山県全体で2名の応募があり、本校を希望した1名を受入れました。

内部質保証

■ 自己点検

自己研鑽、検証制度を実施し、PDCAサイクルによる目標、実行、検証、改善について自己点検・評価を実施することで学生への教育力向上に役立てました。

また、今後は新たな検証制度を設け、より一層の改善に努めます。

■内部監査

授業観察を実施し、教育向上に努めました。専任教員を対象に授業観察を実施し、授業の方法や工夫などについて、客観的に評価するもので、校長以下副校長、学科長、事務室長が観察を行いました。また同時に、学生の授業参加状況についても検証し、より充実した授業となるよう検証を行いました。

■学外者の意見の反映

学校評価委員会を設置し、第三者からの言及を尊重し、改善を進めるために委員会規程を整備しました。次年度は、委員会委員の人選を進める予定です。

その他の取組等

■正課外活動の支援

保健、医療、福祉分野のアルバイトを紹介し、授業の理解や臨床実習などの実習教育に結びました。

人事・組織

■適切な人材の確保、配置

適正な教職員を確保し適切な配置により、教育の充実を図りました。

主な行事

4月4日	入学宣誓式
5月13日	宣誓式（保健看護学科）
5月20・21日	たまの港フェスティバル
5月27日	第1回オープンキャンパス
6月24日	第2回オープンキャンパス
6月29日	国際交流（外国人研修団との交流）
7月1日	岡山県専修学校スポーツ大会
7月22日	第3回オープンキャンパス
8月6日	第4回オープンキャンパス
8月26日	第5回オープンキャンパス
9月2、16、30日	教育進路懇談会
9月4日 ～16日	海外研修（アメリカ合衆国）
10月7日	公開講座①
10月14日	特別入試、社会人入試Ⅰ期他
10月21日	優勇祭（学校祭）、学校見学会
10月28日	公開講座②
11月3日	入試説明会
11月11日	推薦入試Ⅰ期
11月18日	公開講座③
12月9日	推薦入試Ⅱ期、社会人入試他
12月22日	壮行式（理学療法学科・作業療法学科）
1月11日	鏡開き
1月27日	一般入試Ⅰ期
2月3日	第6回オープンキャンパス
2月16日	入学前オリエンテーション
1月28日 2月16、18、25日	国家試験受験（介護福祉士、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士）
2月24日	一般入試Ⅱ期
3月3日	非常勤講師連絡会議
3月10日	卒業証書授与式
3月11日	教育進路懇談会
3月16日	実習指導者連絡会議
3月24日	第7回オープンキャンパス
3月27日	一般入試Ⅲ期

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成29年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
医療専門課程	保健看護学科	40	54	160	167
	理学療法学科	40	35	160	143
	作業療法学科	40	15	160	75
	計	120	104	480	385
教育・社会福祉 専門課程	介護福祉学科	40	5	80	17
	計	40	5	80	17
合 計		160	109	560	402

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成29年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
玉野総合医療専門学校	100	97	84	87%	2	37	1	17

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成30年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	岡山療護センター、心臓病センター榊原病院、岡山リハビリテーション病院 岡山市立市民病院、倉敷成人病センター、岩国医療センター	他
-------	---	---

■教職員数

(平成29年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	事務職員
1	2	28	31	7

(※副校長1名は教員兼任)

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	
		29年度 決算額	前年度 決算額
教育活動 収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	419,348	449,017
	経常費等補助金	23,445	26,027
	その他収入	4,871	35,399
	計	447,664	510,443
支出	人件費	358,169	392,375
	教育研究経費	102,190	102,353
	管理経費	40,981	39,846
	その他支出	253	225
	計	501,593	534,799
教育活動収支差額		△53,929	△24,356
教活外	収入		
	受取利息等	1	1
	支出		
借入金利息等	0	0	
教育活動外収支差額		1	1
経常収支差額		△53,928	△24,355
特別	収入		
	資産売却差額等	1,457	1,545
	支出		
資産処分差額等	0	16	
特別収支差額		1,457	1,529
基本金組入前収支差額		△52,471	△22,825
基本金組入額合計		△2,469	△6,333
当年度収支差額		△54,940	△29,158